

## 1 目指す学校

**ものづくりを柱とする多様なプログラムを通して「学び直し」と「進路実現」ができる学校**

工業科エンカレッジスクールとして、二人担任制、朝学習や30分授業、幅広い体験活動などの特色を生かしながら、生徒の意欲を高め、可能性を引き出し、希望の進路への実現ができる学校づくりを進める。

**(1) 学習への興味・関心を高め、社会生活に必要な基礎学力を確実に身に付ける。**

生徒の可能性を最大限に引き出す授業内容や方法によるきめ細かな指導を行い、全ての生徒に高校以前の学習内容を含め、社会的・職業的自立に必要な基礎的な学力を確実に身に付ける。

**(2) 健全な職業観、勤労観を育み、社会的自立に必要な力を身に付けた生徒を育てる。**

3年間を見通した計画的なキャリア教育を行い、進路実現に向け、自ら進んで取り組める力や、コミュニケーション能力、社会的自立に必要な力を確実に身に付ける。

**(3) ものづくりの楽しさ、面白さを学び、専門的な知識・技術・技能を身に付ける。**

生徒のものづくりへの興味・関心を高める指導を行い、個々の適性や進路先を見極めるとともに、専門知識や技能習得の基盤となる工業の基本的な知識・技術力を確実に身に付けるとともに、問題点や課題を発見し、解決方法を模索する力を養う。

**(4) 社会生活に必要なルールやマナー、社会人としての基礎・基本を身に付ける。**

保護者と連携し、基本的な生活習慣の定着を図り、安全指導、問題行動防止、生命の尊さ、いじめ防止に向けた指導を徹底し、社会人としての必要な礼儀やマナー、規律や態度、健康的な生活習慣を身に付ける。

**(5) 生徒の個性や人権が尊重され、行事や部活動が活発に行われる、元気で活気のある学校**

生徒の個性の伸長を図るとともに、自他の基本的人権を尊重する精神を培い、互いに尊重しあい、適切にコミュニケーションがとれる力を身に付け、よりよい生活や健全な人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。

**(6) 地域に根ざし、信頼され、必要とされる、開かれている学校**

「地域に根ざした練馬工業高校づくり」を進め、社会貢献の意義を考えさせ、道徳教育の充実を図る。地域に信頼される学校を目指す。

## 2 中期的目標と方策

(1) [学習指導] 学校の教育活動全体を通して、ルーブリックにより教科横断的に育成すべき資質・能力への評価基準を示し、朝学習、30分授業、習熟度別授業、少人数授業により、きめ細かなわかる授業を展開し、生徒の学習状況を見極めるとともに、生徒の学習を促し、学習習慣を定着させ、確実に基礎学力の定着・向上を図る。

①学び直しや進路実現のための学習に対応した授業改善

②エンカレッジスクールとしての到達度目標に向けた学習評価方法の改善

③各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で、中期的目標を実現するため、昨年度に引き続き「カリキュラム・マネジメント」を実施

④資格取得、検定試験合格、コンテストの参加など生徒に具体的な目標を示すことで、成果を実感できる指導の工夫

⑤生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索するなど、授業に探求等を取り入れる「課題解決型学習(PBL: Project Based Learning)の研修の実施

⑥毎時間の授業を大切にする取組み姿勢の定着と年間授業時数の確保

⑦特に義務教育段階の学び直しが必要な生徒に対して、放課後を活用した個に応じた学習支援(校内寺子屋)を実施

⑧スマートフォン、タブレット、PCなどを使用した「学習支援クラウドサービス」の利用による「授業・学習コンテンツ」等の活用

(2) [進路指導] 3年間を見通したキャリア教育を充実させ、進路実現に向け、健全な職業観・勤労観を育み、社会人・職業人として必要な力を身に付ける。

①キャリア教育の視点に立ち、高校3年間を見通した進路指導計画の編成・実施・改善

②健全な職業観・勤労観の育成につながるインターンシップなどの体験的活動の一層の充実

③体験活動や個別指導の充実による進路意識の高揚と進路希望の実現

④企業・上級学校との連携による体験の拡充、企業からの求人数増加や大学等の推薦枠の拡大への取組

(3) [生活指導] 生徒との対話や心の交流を中心として、決して体罰によることなく、よき社会人となるために

必要な基本的な生活習慣、規範意識、公共心を育成する。

- ① 自立支援チームと連携し、全教職員が一体となって健全育成に当たる生活指導體制・教育相談体制の確立
  - ② 家庭と連携した望ましい生活習慣の確立、社会性や規範意識、公共心を育む規律指導の徹底
  - ③ 地域の関係諸機関と連携した生命、安全、人権等にかかわる指導の充実
- (4) [特別活動] 学校行事、生徒会活動、部活動等を通して、生徒の地域貢献・社会貢献活動をより活発化し、生徒に自信を付けさせるとともに、自己表現力やコミュニケーション能力を高める。
- ① 生徒一人一人に役割を持たせ、集団への帰属意識を高める指導の徹底
  - ② 部活動への全員加入を目指した取組みと活動実績の向上
  - ③ 地域貢献等のボランティア活動や日々の清掃活動などによる奉仕の精神、美化意識の醸成
  - ④ 地域の関係諸機関と連携した防災訓練を通して、地域で生かせる防災教育の充実
  - ⑤ 国際理解教育を推進して、グローバル社会においても活躍できる人材の育成
  - ⑥ オリンピック・パラリンピック教育を通じて、国際理解を深め、様々な国の人々との交流からグローバル感覚を身に付けるとともに、ボランティアマインドの向上や、障害者理解の深化
- (5) [健康づくり] 心身共に健康な体づくりや体力向上に向けて主体的な取組みができる力を育成する。
- ① 心身共に健康な体づくりや体力向上に向けた、授業改善、体験活動、学校行事の工夫
  - ② 学校保健計画の組織的な実施
  - ③ 全ての教職員が、教育活動全体を通じて、生命を尊重する心の育成を実施
  - ④ 適応指導や教育相談にかかわる校内研修および活動のさらなる充実
- (6) [募集・広報活動] 学校の広報活動を更に活性化させ、都民の本校に対する理解を高め、中学生・保護者に選ばれる魅力ある学校づくりに努める。
- ① 推薦、分割前期、分割後期募集における入学者選抜方法の工夫
  - ② 広報・PR組織の強化、学校ホームページ、ツイッターの随時更新、PR動画の制作、学校説明会、体験入学、体験入部等の広報活動の改善、充実
  - ③ 中学校教員や塾の講師などを対象とした広報活動の推進
  - ④ 学校開放事業や公開講座、出前授業、わくわくドキドキ夏休み工作室の改善、充実
  - ⑤ 一般社団法人と連携した、さんだる相談会等を実施した広報活動の強化
- (7) [学校経営・組織体制] 学校経営計画を実現する学校運営体制の工夫、改善を行う。
- ① 工業科エンカレッジスクールを推進する自立支援チームの有効活用を図る校内体制の強化
  - ② 生徒理解や授業改善、サービス事故根絶等にかかわる校内研修の充実
  - ③ 企画調整会議の充実と経営参画型の経営企画室の体制づくりの充実
  - ④ 働き方改革プランを推進させ、仕事の割り振りと効率を図った、ライフ・ワーク・バランスの実現

### 3. 今年度の取組み目標と方策：工業科エンカレッジスクールとしての着実な前進を目指す。

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ① 学習指導

##### ア. 授業規律遵守の指導に全教職員が組織的に取り組む。

○ 規範意識向上の取組として、チャイムと同時の授業開始、授業の開始と終了時の制服を着用しての挨拶の励行、机上に不要なものを置かせない指導、授業中の携帯電話・スマートフォンの禁止を徹底する。

○ 授業中の巡回指導を定期的に行い、授業遅刻や中抜けを防止し、授業を大切にすることを育てる。

##### イ. 学習の習慣を付けさせ、義務教育段階から基礎・基本を理解させ、第一希望で就職等の進路実現ができる学力を育成する。

○ 30分授業やベーシックの時間(学び直しの時間)、習熟度別授業・少人数授業により、授業に集中させる。また、朝学習や基礎学力定着のために共通テストの実施、座学・実習におけるICT機器の活用により確実に学力を高める。キャリア・パスポートなどを利用したポートフォリオを構築させる。

○ 特別支援教育の視点を考慮し、情報の共有化を図り、指導法の工夫やユニバーサルデザインの考え方に基づく授業、教育環境の充実と整備に努める。

○ 生徒が意欲的・主体的に学べるよう授業内容、指導方法、学習評価の在り方を工夫・改善する。特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行うための校内研修の実施

○ 外部の力を活用して就職試験突破のための指導方法・教材等の改善にかかわる研修を実施する。

○ 資格取得や検定試験合格への挑戦、各種競技会・展示会への参加、課題研究発表会でのプレゼンテーションなど、具体的な目標達成のための指導を継続して実施し、生徒のやる気を高める。

○ 特に義務教育段階の学び直しが必要な生徒に対して、外部人材を活用し、基礎学力の定着を図る。

○ 2年次後期から系列への繋がりを配慮した授業展開を実施し、専門性の向上を目指す。

○ 生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索するなど、授業に探求等を取り入れる「課題解決型学習(PBL: Project Based Learning)の研修の実施

○ 新学習指導要領に対応した教育課程の改善

## ②進路指導

### ア. 望ましい職業観・勤労観を醸成する。

○各学年の生徒の実情に応じた年間の進路指導計画を作成し、インターンシップや進路講話、職業的自立支援プログラムなど外部機関と連携し、キャリア教育の一層の充実を図り、生徒の進路意識を向上させる。

### イ. 生徒の適性に応じた進路の実現に努め、進路未決定者を無くす。

○進路希望調査や適性検査を踏まえた個別相談・三者面談をきめ細かく行うとともに、進路指導部と学年、ハローワークとが連携して系列毎の新たな進路先を開拓し、希望進路の実現と進路未決定者の減少を図る。

○社会情勢やニーズなど必要とされる人材情報の収集に努め、就職模試や模擬面接などを通して、一般常識・表現力等を身に付けさせると共に、必要な職業資格の取得指導を積極的に行い、生徒の進路希望を実現する。

○卒業生で学校幹旋により就職をした生徒と企業に対し、定着状況の調査を行い、現状の把握と分析から、今後の進路指導に活かしていく。

## ③生活指導

### ア. 教員あげて一層の生徒理解に努める。

○毎日の生徒の様子を観察するとともに、教員間の生徒情報の共有に努め、学校精神科医、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの一層の連携など、教育相談活動の充実を図る。

○教職員と保護者との連携により、生徒の不安や悩みの解消に向け、教育相談体制を充実させる。

### イ. 生徒に基本的な生活習慣や規範意識、自信を付けさせ、好ましい人間関係の確立を支援する。

○規範意識向上の取組として、校則を守り基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせる指導を全教員が一致して行う。特に、「遅刻」、「服装」、「授業規律」に関する指導を徹底する。

○様々な社会貢献により生徒に自信を付けさせるとともに、コミュニケーション能力を高める指導を通して互いを尊重しあう態度を培い、いじめ・暴力を絶対に許さない環境づくりに取り組む。

○いじめ問題に関して、早期発見、早期対応に努めるとともに、適切に対応するため、個々の教員のいじめ問題への敏感な感覚と的確な指導力を高め、どんなに小さいいじめと思われる事案に対しても、学校全体による組織的な取組により解決を図れる体制づくりを行う。

## ④特別活動

### ア. 学校行事、生徒会活動、部活動等の一層の活性化を図る。

○学校行事やHR活動、生徒会活動、部活動において、個々の生徒に役割と責任を持たせ、生徒の活躍の場を広げるとともに達成感、自己有用感を体験できる環境づくりに配慮すると共に、自己表現力を育成する。

○部活動の年間活動計画を見直し、主体的に活動できるよう継続して指導を行うとともに、大会やコンペ、地域行事への参加を促して部活動加入率を高める。

○地域の関係諸機関と連携し、防災教育を推進・強化する。

## ⑤学習環境整備と健康づくり

### ア. 生徒の学校生活を支える心身の健康づくりに取り組む。

○学校保健計画に基づき食育や齲歯治療など生徒の健康づくりにかかわる指導に加え、専門医派遣事業を活用し生徒の心身の健全な育成を図る。

○家庭との連携・協力を密に行い、望ましい生活習慣の育成や生活リズムの向上を図る。

○環境に配慮した校舎の構造に合わせた清掃美化活動を通して、学習環境の一層の整備を図る。

## ⑥募集・広報活動

### ア. 工業科エンカレッジスクールへの都民の理解を一層深める。

○通年の授業公開や学校見学会・説明会（さんだる相談会）、体験入学、体験入部、わくわくドキドキ夏休み工作スタジオ、生徒作品展、インターンシップ報告会、課題研究発表会に加え、塾・中学校教員向けの説明会などを実施し、本校の特色を塾、中学校、生徒・保護者をはじめ、広く都民に周知する。

○ホームページのリニューアルやツイッターの迅速な更新、PR動画の制作、出前授業など、学校からの情報発信を活発に行い、合わせて、生徒による母校訪問の実施や中学生の上級学校訪問の積極的な受入れなど、学校PRを一層推進する。

## ⑦学校経営・組織体制

### ア. 工業科エンカレッジスクールとしての使命を果たせる組織づくりを推進する。

○学年と分掌の情報の共有化を図ると共に、円滑で効率的な学校経営を推進する。

○学校経営計画の実現に向け、庶務・経理・学事等の各部門において、教育活動を充実させるための事務運営を工夫、実践し、適正かつ効果的な予算管理と計画的な執行に努め、教育環境の向上に努める。

○環境の保守改善に努め、安全・安心な学校づくりに努める。

### イ. 教員の意識改革と資質・能力の向上を図る。

○授業改善・教材開発、教育相談、体罰防止等の服務に関する校内研修及び、OJTを計画的、組織的

に実施し、教員の意識改革とエンカレッジスクールにおける教育活動に必要な資質・能力の向上を図る。

**ウ. 個人情報の保護・管理と体罰防止の取り組みを徹底して行う。**

○個人情報の保護・管理と体罰防止に向け、校内研修を充実すると共に日常的な組織的取組みを強化する。

**エ. 工業科エンカレッジスクール第2ステージにあたり、カリキュラム・マネジメントを継続して実施し、学習指導要領の改定に向け、教育課程の改善を行う。**

○各系列の専門性を維持または向上できる人事異動と人員配置を目指す。

○学習指導要領の改訂に向け、エンカレッジスクールの教育課程の改善・充実を図る。

**オ. 働き方改革プランを推進させ、仕事の効率を図り、ライフ・ワーク・バランスの実現を図る。**

○計画的、組織的な仕事の進め方により業務の効率化の徹底を図り、教職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの実現を図る。

○部活動指導を見直し、部活動指導員や外部指導員を活用するなど、教員の在校時間の縮減を図る。

**⑧その他**

ア. 本校が期待する生徒が入学できるよう、入学者選抜方法の工夫・改善に努める。

イ. 地域の小・中学校と連携した小中学生向け、ものづくり講座の開催等により、ものづくり教育の一層の推進を図る。

ウ. 読書月間の設置、授業での図書室利用により読書活動を推進し、生徒の知見を広げるとともに、自己と向き合う機会の拡充を図る。

エ. 留学生との交流、オリンピック・パラリンピック教育を活用して、国際理解教育を推進する。

**(2) 重点目標と方策、数値目標（〔 〕は令和元年度の実績）**

①エンカレッジスクールの特色ある教育活動と自立支援チーム派遣事業等を通して生徒の学校生活を支援し、中途退学者数を減らす。

・中途退学者数

1年10人以下、2年3人以下、3年生0人〔1年：19人、2年：6人、3年：2人〕

②キャリア教育の一層の充実を図り、自己の適性を見出させ、進路希望の実現を図る。

・生徒一人一資格取得率 平均2個〔年間一人一資格取得率 平均0.88〕

・就職一次内定率 85%〔82.9%〕

・就職最終決定者率 100%〔100%〕

・卒業時の進路未定者率 1%以下〔5.0%〕

③全教員が一体となった組織的な取組みにより、基本的生活習慣の定着と規範意識の徹底を図る。

・年間欠席日数が20日以上の子 15人以下〔23人〕

・特別指導件数 15件以下〔19件〕

④部活動の一層の活性化を進め、部活動加入者の増加を図る。

・年度末の部活動加入率 70%以上〔75%〕

⑤校内研修により教育相談の一層の充実を図る

・教育相談に関わる校内研修 18回以上 参加者数のべ250人以上〔15回、参加者数のべ240人〕

⑥学校PR活動の一層の充実を図り、より本校に合った生徒の入学を目指す。

・学校説明会の参加人数（保護者と中学生） 1500人以上〔1353人〕

・教員の中学校訪問回数一人2校以上、のべ100校以上を目指す。〔63校〕

⑦研究授業・研究協議を積極的に実施し、教員の授業力向上を図る。

・教員相互の授業観察を年3回以上実施する。また、全都に公開する研究授業・研究協議を25回以上〔相互の授業観察に加え全都に公開する研究授業・研究協議の実施回数 21回〕

・課題解決型学習（PBL）を先進的に行う学校の視察3校〔令和2年度からの取組〕

⑧読書月間の活性化などを通して読書活動を推進する。

・生徒への図書室利用者数の増大 年間延べ利用者数7000人以上〔6161人〕